

一人一人が大切にされる学校です

本年度は187人の新入生を迎え、521人の生徒たちと先生たちでスタートしました。全ての教育活動の基盤に人権教育を据え、授業はもちろん、さまざまな学校行事を通して人間形成を推進しています。

本校は、熊本県教育委員会指定「道徳教育研究推進校」の指定を受け、2カ年にわたり研究を進めています。さまざまな体験活動を通して「命を大切にする心」「自然に対する畏敬の念」「自他を大切にする心」「郷土を愛する心」などを醸成するとともに、「考え議論する道徳科授業」を創造し、学校全体で道徳教育を推進していきます。



テーマに沿って班の意見を出し合い、代表が発表しています

人権啓発標語 「ひとりじゃないよ そばにいるから だいじょうぶ」

武蔵ヶ丘北小学校 3年 吉松 珀菜子(現在4年生)

「ほんとうの友だちを通して学んだこと」

菊陽西小学校 3年 本田 笑麻(現在4年生)



友だちを大切にしていきたい

人権学習「ほんとうの友だち」では、決めつけはいけないということを学習しました。また、友だちがいじめられていたら、「やめて」と言えるような人になりたいと思いました。

私は、体育のキックベースボールの試合で男の子に、「女子のせいで負けたんだよ」と言われ、決めつけられたことがいやだったとみんなに話しました。一生懸命がんばっているのに、なぜ、女の子だけのせいなのか。とても悲しい気持ちになりました。どうしてそんなことを言ったのかを聞くと、「勝ちたい気持ちが強くて、そんなことを言ってしまった」と答えてくれました。私は初めて、言った人の気持ちに気付くことができました。これからどうしていけばよいのかについてみんなで考えると、言ってしまった人だけではなく、その状況を見ているだけだった人も、「次がんばろう

ね」のようなあたたかい言葉をかけたらいいと発表してくれました。

私は、みんなが真剣に考えてくれてとてもうれしかったです。そして、私はみんなで真剣に考えることができたので、次のキックベースボールの試合がとても楽しみにになりました。

楽しみにしていたキックベースボールの試合がありました。私が上手にボールを蹴れなかったときに、男の子が「次、がんばろうね」と声を掛けてくれました。私は、とても嬉しかったです。みんなに話してよかったなと思いました。ほんとうの友だちを学習して、大切なことを学ぶことができました。これからも友だちを大切にしていきたいです。

(先生から)この学習を通して決めつけのおかしさに気付き、みんなの前で一生懸命発表してくれました。笑麻さんの想いが届き、みんなで真剣に考えることができました。これからあたたかい言葉がどんどん増えていくといいですね。

短歌会

百貨店の窓に見晴らす阿蘇ヶ嶺は雲の飛ばされ盛り上がり見ゆ
荒らされしスイートコーンに鳥よけのネットを被せる風強き朝
一斉に木々は萌え立ちさまざまな緑が里の山覆いゆく
手に草の香りを付けてヨモギ摘む家族が揃う節句も近し
パンジーを食べてる黒い幼虫はツマグロヒョウモン図鑑のこれです

菊陽句会報

きくよう文芸

あふれ出る命の色や椎の花	田島 三間	新緑に我は縁なきピアスかな	木村 信子
大吉や令和幕明き五月晴	宮川ユキエ	永久菫揃ひ紅顔夏近し	財津 早雪
復興なる新緑に映ゆ大天守	紫藤 祥子	若葉寒子猿に出会う阿蘇小径	原野レイ子
新茶汲む孫の残せし金平糖	曾我 育代	春惜しむ平成ついに終りなる	寺尾千代子
朝夕につつじの庭に廻り佇つ	曾我トモ子	初種を浸し始まる田の暮らし	高橋 孝子
葉桜や天地の間中青き影	緒方チエ子	母の日や感謝の気持ちをラインにて	福田 貴子
花衣好きとはいえど派手過ぎて	米山るみ子	美しき祖国の春や御代替はる	北川しんじ
もてなしの椀に菜の花浮き咲かず	吉田 幸子	滔々と湧水の郷栗の花	佐藤 澄世
言訳の甘き控へめ桜餅	志賀キヨ子		

有久 賢治
梅田 國雄
佐藤せい子
中村トシエ
松本 東亜

多文化共生社会の実現を目指して
～「入管法」4月改正を通して考える～

1950年(昭和25年)の外国人の入国者数は1万8千人でしたが、2017年(平成29年)には約2,743万人と1,524倍に増加しています。また、在留外国人は238万人を超え過去10年で約40万人も増えています。(法務省：2016年在留外国人統計)

「外国人は日本政府の許可を得なければ日本に在留できない」この根拠になるのが「入管法」です。正式には「出入国管理及び難民認定法」という名称です。在留の許可に相当するのが、28種類の「在留資格」ですが、2019年4月からは新たな「在留資格」として「特定技能」が創設されました。日本の人口減少や労働力人口の減少に伴う経済政策としての改正といえます。今後も外国人の増加は予想されます。菊陽町でも外国人住民の人数は2016年(257人)→2017年(310人)→2018年(346人)→2019年4月(417人)と増加しています。日本に住むようになったいきさつにはさまざまなものがあります。そして、外国人にとっては日本で生活する上では、言葉の壁、心の壁、制度の壁、文化の壁な

どが感じられます。日本で暮らすようになったある子どもが「ぼくは生まれも育ちも日本だ。でもお父さんはアメリカ人でお母さんは日本人。お父さんは英語しか話せないで、お母さんがいつも通訳してくれていた。勉強は言葉がわからず、考えることができなかった。授業が分からないのでぼーっとしていた。でも、中2の時、お父さんと英語で話せるようになったらと先生に言われ、英語を頑張った。英語が分かるようになり数学も少しずつ分かるようになった。いろんな外国にルーツを持つ子どもたちがいることを先生たちには分かってほしい」と語っていました。さまざまな違う文化を持つ人たち同士が共に生き合う多文化共生の地域づくりが求められます。



命の重み みな同じ